



「^{ひだり}左^{みぎ}ヒラメに、右カレイ」ってどういう意味なの

ヒラメとカレイの^{みわ}見分け方^{かた}をいっている

ヒラメとカレイ(イシガレイやマコガレイ)は、どちらも、^{ひら}平べったい^{からだ}体をしていて、^{いろ}色や^{もよう}模様が似ています。どちらも、^{かいてい}海底の^{すな}砂にもぐったり、^{すな}砂の上でじっとしています。^{からだ}体の^{いろ}色を、^{すな}まわりの砂に似せた色に^{いろ}変化させ、^{てき}敵の^め目をごまかすのが^{てん}うまい^{おな}点も同じです。

ヒラメとイシガレイやマコガレイのちがいは、^め目のついて^{がわ}いる側が^{てん}ちがう^{てん}点です。じつは、ヒラメやカレイも、^{せん}先祖は^ぞふつうの^{さかな}魚の^{からだ}ような^{かた}体をして^{かいてい}いた^{せい}かつ^{かつ}よう^{せい}です。でも、^{かいてい}海底での^{せい}生活^{かつ}につ^{せい}ごう^{かつ}が^{せい}よい^{かつ}体の^{せい}形に、^{かた}変化^{かつ}して^{せい}きた^{かつ}のです。

ヒラメは^{ひだりがわ}左側、マコガレイは^{みぎがわ}右側^むを向いている

^め目が^{うへ}上^{ほう}の方に^{うへ}くる^{ほう}ように^{なら}並べ^{なら}て^{なら}みると、^{くち}マコガレイは^{みぎ}口が^{みぎ}右に、^{ひだり}ヒラメは^{ひだり}左に^{ひだり}きます。^{うへ}このとき、^{うへ}上にある^{うへ}ひれが、^{さかな}じつは^{せい}ふつうの^{せい}魚の^{せい}背びれに^{せい}あたり、^{した}下^{ほう}の方にある^{うへ}ひれが、^{はら}腹^{はら}びれ^{はら}なのです。^{からだ}体を^{かいてい}海底に^{かいてい}た^{せい}おした^{せい}生活^{せい}をする^{せい}よう^{せい}にな^{せい}って、^{からだ}ヒラメは^{ひだりがわ}体の^め左側^めに^め目が^め移動^めし、^{みぎがわ}マコガレイ^いなどは^い右側^いに^い移動^いした^いと^い考え^いられ^います。そこで、^{からだ}体の^{ひだりがわ}左側^めに^め目が^めある^めヒラメ、^{みぎがわ}右側^めに^め目が^めある^めカレイを「^{ひだり}左^{みぎ}ヒラメ、右カレイ」といって、^{みわ}見分け方^{かた}を^{おぼ}覚^{おぼ}えた^{おぼ}のです。^{からだ}ヒラメは^{ひだりがわ}いつも^{うへ}体の^{うへ}左側^{うへ}を上^{うへ}にし、^{みぎがわ}カレイは^{うへ}右側^{うへ}を上^{うへ}にして^{うへ}ね^{うへ}そ^{うへ}べ^{うへ}っている^{うへ}わけ^{うへ}です。(監修・安部 義孝)

